

8 大楠公馬上奮戦之像

齋藤素巖

一点

昭和十年（一九三五）

ブロンズ・鑄造

一六・六×三八・三×四〇・八

昭和十年（一九三五）の大楠公六百年祭の記念事業として、神戸新聞社の呼びかけで集められた約十五万人の市民からの募金に基づき、同八年に同社から依頼を受けた齋藤素巖（一八八九～一九七四）が原型を制作して、同十年五月に神戸湊川公園に楠木正成の騎馬像が設置された。本作はこの像を縮小したもので、同じく十年の構造社第九回展に出品された石膏の「楠木正成公像」から鑄造されたとみられるブロンズ像である。昭和十年十月に神戸新聞社社長より兵庫県知事を経て昭和天皇へ献上された。わき上がる叢雲から勢いよく馬が駆け上がる姿は、本作の制作依頼の際に受けた、素巖が同五年の構造社第四回展に出品した「雄飛」のようなスタイルにして欲しいとの希望に沿ったもので、皇居外苑にある一世代前の高村光雲と後藤貞行の合作による「楠木正成像」とは全く異なる、新しい雰囲気をもっている。甲冑と武具の時代考証は有職故実研究家の関保之助が担当した。高い精神性をもなった建築彫刻など、存在感のある野外彫刻に力を発揮した素巖の意欲作である。

齋藤素巖は東京美術学校西洋画科卒業後、英国へ留学してロイヤル・アカデミー・スクールで彫刻を学んだ。第一次世界大戦激化のため帰国した翌年の第十一回文展に初入選し、その後、帝展審査員までつとめたが、当時の帝展審査のあり方を批判し、大正十五年（一九二六）に日名子実三らと在野の彫刻団体・構造社を結成した。昭和十九年に解散するまで中心メンバーとして支え、戦後は主に日展と日彫展で作品発表を行った。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に¹出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

こまくら
駒競べ——馬の晴れ姿

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 73

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
平成二十八年七月九日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonmaru Shōzōkan